

# CMS（NetCommons）を活用した 学校ホームページ作成・運用についての支援方法

企画研究部 研究員 西山 慶美

## 要約

信頼される開かれた学校づくりを実現するための学校ホームページによる情報発信と校務の情報化を推進するために、平成 25 年度に研修を実施した。その中で、学校ホームページ担当者は、Content Management System の 1 つである NetCommons による学校ホームページを運用しながら更新することに困難さを感じている現状が分かった。

本研究では、NetCommons で提供されているプライベートスペース及びグループスペースの活用も含めた、複数の教員による学校ホームページ作成・更新の支援方法について提案する。また、今後、校務の情報化をより推進するための支援方法について考察する。

キーワード：NetCommons、校務の情報化、学校ホームページ、教員の ICT 活用指導力

## 1 現状

Content Management System（以下、CMSとする。）を利用すると、ブラウザを介してインターネット上で容易にホームページを作成できる。NetCommons は、国立情報学研究所が推進している CMS である。京都府教育情報ネットワークでは、平成 25 年度に 36 の学校から NetCommons 利用申請があり、平成 25 年度末時点で学校を含む 269 の京都府内教育機関がこれを利用している。

平成 25 年度の操作説明会において、学校ホームページの運用に合わせた NetCommons の操作について説明したことにより、参加者が自校の学校組織に合わせた運用方法を考えることができた。また、説明会の資料を使って校内研修を行った事例もあり、学校ホームページの運用に対する支援を担うことができた。

しかし、平成 25 年度の京都府における校務の情報化の現状を見てみると、その支援が教員の意識向上にまで至っていない。文部科学省実施の「学校における教育の情報化の実態等に関する調査」の「教員の ICT 活用指導力」調査によると、「E 校務に ICT を活用する能力」において、「4 わりにできる」「3 ややできる」と答えた割合は平成 25 年度で 68.9%（全国平均が 77.0%）となっており、依然、京都府として校務の情報化は進んでいないのが現状である。

## 2 学校への支援方法 ―― CMS (NetCommons) の操作説明会

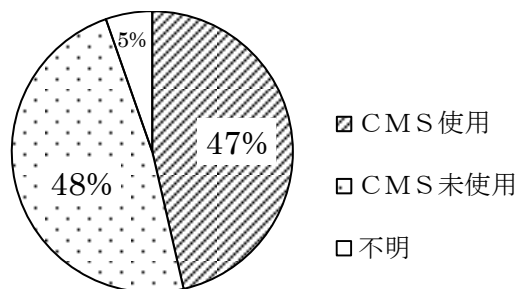
### 2-1 操作説明会

平成 26 年度も学校ホームページ作成・運用における支援となるよう、操作説明会を実施した。基礎編として CMS (NetCommons) の概要と「日誌」モジュールの編集について説明を行った。「日誌」モジュールとは、NetCommons で提供されている機能であり、Weblog (ブログ) のように記事を掲載することができる。また、応用編として会員管理について説明を行った。会員管理を行うことによって、会員毎に学校ホームページを編集できる部分を制限しながら、運用することができる。それぞれで、延べ約 60 名の参加があった。

### 2-2 実施後のアンケート結果

実施後のアンケートには 56 名が回答した。26 名が既に CMS (NetCommons) を使用しており、27 名が未使用であった。(グラフ 1) また、参加者のうち、24 名がネットワーク担当者と学校ホームページ担当者を兼ねていた。さらに、CMS (NetCommons) を使用している参加者のうち、5 名の学校では、既に複数の ID を使用して複数の教員が学校ホームページに関わっていることが分かった。

[グラフ 1 説明会参加者の CMS (NetCommons) 使用状況]



アンケートの自由記述欄には、次のような意見があった。

- ・権限や運用について知識を整理することができた。
- ・会員管理をすれば、ホームページ更新に係る負担が分散できる点は魅力的である。
- ・更新回数を増やすことができると思う。
- ・現在のホームページからの移行の時、一から作り直さなければならぬ負担がある。
- ・実際に自校のホームページで編集をするには二の足を踏んでしまう。

### 3 支援の中から見えてきた課題

参加者の意見から、既に HTML 形式でホームページを作成している学校は、すべて CMS (NetCommons) に移行するには負担が大きいと感じていることが分かる。CMS (NetCommons) の即時更新が容易になる「日誌」モジュール等が活用できるように、現在の学校ホームページに部分的に導入する方法も提案していくことが必要である。

また、CMS (NetCommons) を活用している学校にとっては、学校ホームページを運用しながらの更新に困難さを感じている現状が分かった。学校ホームページに記事を掲載するためには、必ず管理職の承認が必要となるため、「日誌」モジュールのように承認機能が必要となる。そこで、CMS (NetCommons) のプライベートスペースやグループスペースを活用した学校ホームページの作成・運用方法について説明会を実施することとした。

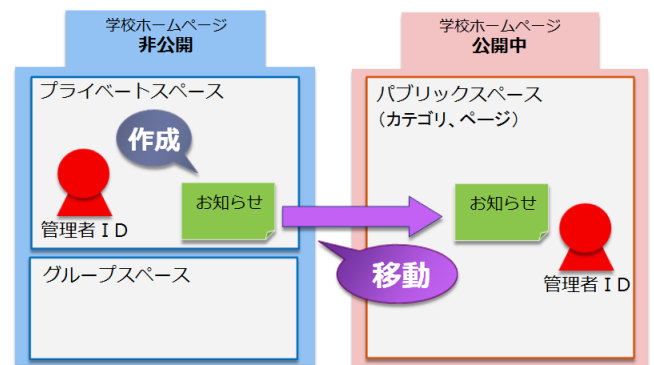
## 4 プライベートスペースやグループスペースを活用した CMS (NetCommons) の説明会

### 4-1 説明会の内容

基礎編、応用編に加えて、今回は新たに発展編として、「パブリックスペースやグループスペースを活用し、学校ホームページを公開しながら、編集を行う」方法について説明を行った。

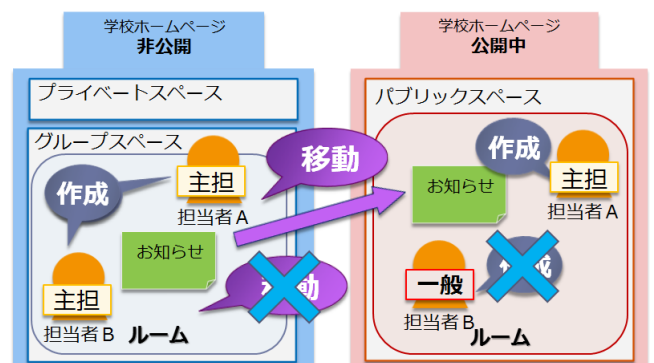
[図1] ステップ1の内容

ステップ1として、プライベートスペースの使い方とモジュールの移動について説明した(図1)。プライベートスペースとは、作成したページがインターネット上に公開されず、自分で試作するために使えるスペースである。「お知らせ」モジュールをプライベートスペースにて作成し、モジュールごとにパブリックスペース(インターネット上に公開されるページ)に移動させるという使用頻度の高い使い方を説明したことで、参加者の活用しようという意欲・関心が高かった



[図2] ステップ2の内容

ステップ2として、グループスペースの使い方について説明した(図2)。グループスペースとは、特定のユーザーのみにページが公開されるスペースである。会員の権限設定を工夫することで、複数の教員がグループスペース内で



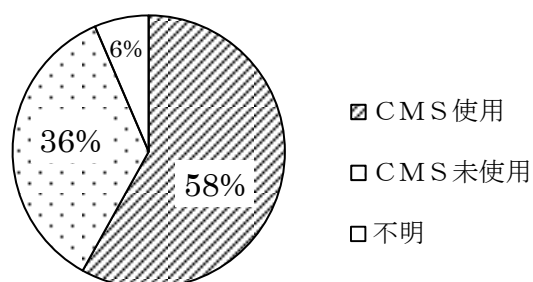
モジュールの編集を行い、特定の教員のみがパブリックスペースにモジュールの移動が行えるようになることを説明した。その中で、「電子決裁」のように、インターネット上で管理職が記事の内容を確認し、そのままモジュールを移動させることで公開することができるという運用方法についても提案した。

#### 4-2 実施後のアンケート結果

31名の参加があり、そのうち18名がCMS（NetCommons）を使用しており、11名が未使用であった。（グラフ2）今回は新しく「グループスペースの活用方法」について扱ったため、既にCMS（NetCommons）を活用している学校からの関心が高かったといえる。

また、参加者のうち13名がネットワーク担当者と学校ホームページ担当者を兼任しており、7名が学校ホームページ担当者のみ、どちらでもないのが10名であった。これまでの説明会に比べ、これから学校ホームページの作成・運用に携わっていく教員の参加が多かった。さらに、CMS（NetCommons）を使用している15名のうち、5名の学校で既に複数のIDを使用していた。

[グラフ2 説明会参加者のCMS（NetCommons）使用状況]



アンケートの自由記述欄には、次のような意見があった。

- ・グループスペースとプライベートスペースの使い分けが参考になった。
- ・日誌以外で「承認」するような方法に近い更新方法があればと思っていたので、参考になった。
- ・管理職への負担が増えると思うので、記事のやり取りは今までと変えられないと思う。

なお、平成26年度は新たに18学校からCMS（NetCommons）利用申請があり、京都府では、計287の教育機関にてCMS（NetCommons）が活用されている。

学校ホームページに記事を公開するときは、事前に必ず管理職の決裁が必要なため、「承認機能」のような仕組みが不可欠となる。プライベートスペースやグループスペースを活

用すれば、「承認機能」のないモジュールでも公開前に記事の内容を確認することが可能であることが示せた。

ただし、意見にもあるように、管理職への負担増加と捉えられないよう、全教職員が学校ホームページの作成・運用に関わっていく体制づくりを整えることが必要である。

## 5 まとめ

平成 25 年度より計 4 回、学校ホームページの運用方法を中心に CMS（NetCommons）説明会を実施した。単なる操作方法を説明するのではなく、より多くの教員が学校ホームページの作成・運用に携われる仕組みを中心に説明したことにより、参加者が自校ですぐに活用できる説明会の内容となったと考える。学校の状況に合わせて、基礎編から発展編まで、段階的に導入していくことが可能な流れを考察することができた。その結果から、プライベートスペース及びグループスペースの活用も含めた、複数の教員による学校ホームページ作成・更新を支援するための説明内容について、次のように提案する。

- [基礎編] ・ CMS（NetCommons）の概要
  - ・ カテゴリ・ページの作成、ページレイアウト
  - ・ プライベートスペース活用方法
- [応用編] ・ 会員管理
  - ・ 「日誌」モジュールへの記事投稿と「承認機能」
- [発展編] ・ グループスペース活用方法

## 6 考察

ここまで、学校ホームページ作成における支援とその運用方法への提案を行ってきた。今後は、校務の情報化をより推進するための支援方法として、学校ホームページ運用における支援を行っていきたい。具体的には、次の 2 つの支援を考えている。

1 つは、学校ホームページの継続した更新のための支援である。学校ホームページを継続して閲覧してもらえることが、継続した更新を行うためのモチベーションにつながると考える。現在、CMS（NetCommons）を活用して、学校ホームページの更新に力を入れている学校はあるが、それを京都府として把握できていない。

そこで、「京都府公立学校ホームページ更新情報サイト“京みて”」という学校ホームページの更新状況を一元化するサイトを作成し、運営していきたい。各学校が自校のホームページ更新状況をこのサイトへ掲載することにより、他校の状況を知ったり、広く府外への広報につなげたりすることが可能であると考えられる。また、保護者や地域の人といった関

覧する人にとっても、更新された記事を探しやすくなると考える。これにより、府内全体の学校ホームページ更新を促進していきたい。

もう1つは、校務の情報化に関する能力向上へ向けた支援である。そのためには、京都府教員の現状を調査する必要がある。そこで、「教員のICT活用指導力」調査の項目に対して、京都府としての回答基準を作成する。

例えば、「ICT活用指導力向上研修」の自己評価シートでは、「E-2 教員間、保護者・地域の連携協力を密にするため、インターネットや校内ネットワークなどを活用して、必要な情報の交換・共有化を図る。」について、「学校における情報発信の道具として学校ホームページによる情報公開の役割について理解している。」等の13項目が示されている。これらの項目のように、「～ができる」「～を理解している」という具体的なチェック項目を設けることで、より具体的に自己評価が可能となるだろう。

これを踏まえて、「教員のICT活用指導力」調査の項目について、京都府の教員として、どのようなICT活用指導力を身に付けていて欲しいのか、具体的な回答基準を作成する。自己評価する教員の負担も考え、各項目に対し、それぞれ厳選した3点のチェック項目を作成した。例えば、「E-2」については、次の3点をチェック項目とした。

- 校内のファイルサーバを使って、データの保存ができる。
- 電子メールを使って、連絡を取ることができる。
- コンピュータを使って、学校ホームページの記事を作成できる。

この調査により、より具体的に京都府教員への支援すべき点が見えてくると考える。平成26年度には、高等学校教員向けの回答基準を示し、各高等学校にて実施した。今後は、この結果を分析し、校務の情報化、そして教育の情報化の支援へとつなげていきたい。

## 文献

- ・西山慶美、「CMS (NetCommons) を活用した学校ホームページ作成による校務支援」(平成25年度研究紀要)、京都府総合教育センター、2014
- ・新井紀子・平塚知真子・松本太佳司、ネットコモンズ公式マニュアル 私にもできちゃった! NetCommons 実例でわかるサイト構築、株式会社 近江科学社、2011
- ・平成25年度 文部科学省実施、学校における教育の情報化の実態等に関する調査
- ・平成19年度文部科学省委託事業 先進的教育情報化推進プログラム、教員のICT活用指導力向上のための形成的な評価方法の開発と実用化 事業報告書、教育情報化推進協議会
- ・文部科学省委託事業 先進的教育情報化推進プログラム ICT活用指導力向上研修、[http://ride0.nara-edu.ac.jp/docroot\\_ict/index.html](http://ride0.nara-edu.ac.jp/docroot_ict/index.html)